

2022 年度(令和 4 年度)温室効果ガス排出状況

(1) 温室効果ガス排出量(基準年度比)

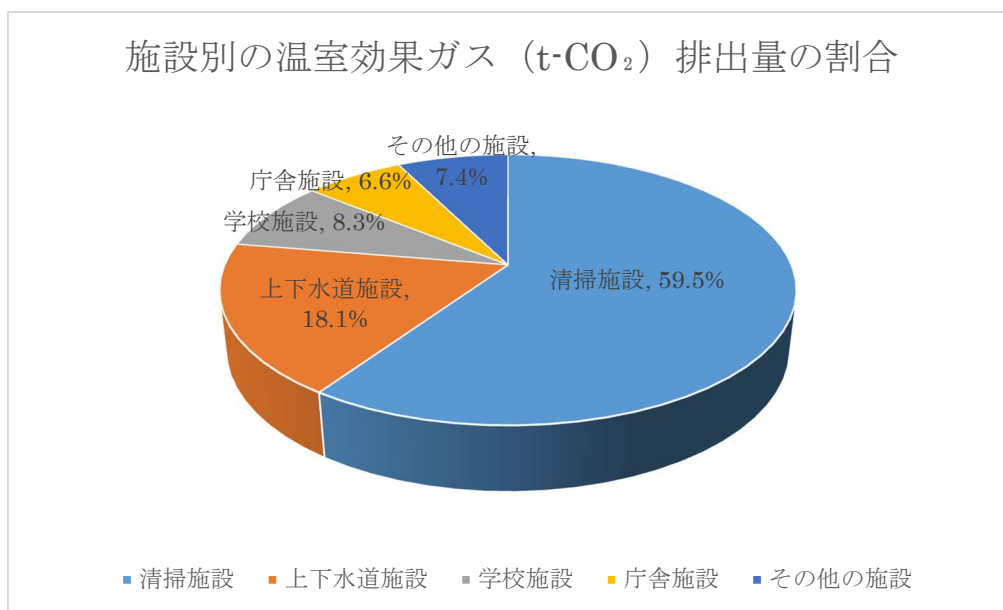
2022 年度の温室効果ガス排出量は、基準年度である2013年度の 16,189t-CO₂から、16,476 t-CO₂となり 287 t-CO₂増加しました。

また、エネルギー起源二酸化炭素は 9%の減少、非エネルギー起源二酸化炭素は 13%増加しました。

エネルギー種別	2013 年度 (基準年度) 排出量(t-CO ₂)	2022 年度 (令和 4 年度) 排出量(t-CO ₂)	基準年度比
エネルギー起源二酸化炭素	8,336	7,586	-9%
電気	6,663	6,251	-6%
灯油	695	424	-39%
軽油	304	182	-40%
ガソリン	278	303	9%
ガス(LPG)	266	198	-25%
重油	130	66	-49%
都市ガス	—	162	—
非エネルギー起源二酸化炭素	7,853	8,890	13%
廃プラスチック類の焼却	7,853	8,890	13%
計	16,189	16,476	2%

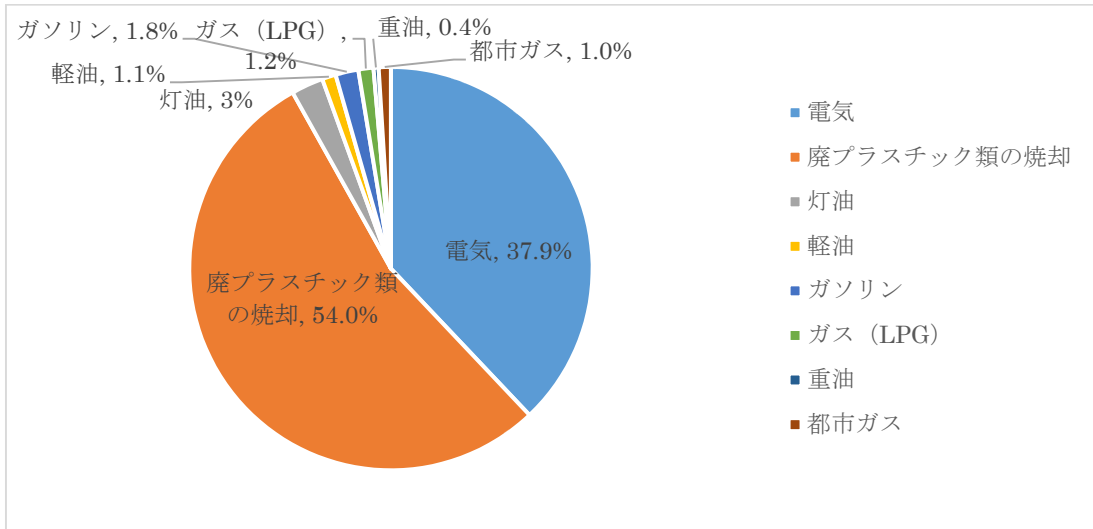
(2) 施設別の温室効果ガス排出量の割合

清掃施設が全体の 59.5%を占め、次いで上下水道施設 18.1%、学校施設 8.3%、庁舎施設 6.6%となっています。



(3) エネルギー種別の温室効果ガス排出量の割合

エネルギー種別では、廃プラスチック類の焼却(54.0%)と、電気(37.9%)で全体の91.9%を占めています。



(4) 温室効果ガス別削減目標

温室効果ガス排出量 16,476 t-CO₂のうち、エネルギー起源二酸化炭素が7,586 t-CO₂、非エネルギー起源二酸化炭素が8,890 t-CO₂となっています。

